

# 緑の地球

# GREEN

# EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 訪日団・たくさんの人と交流 ..... P 2
- 苑西庄村からのたより ..... P 4
- アイヌ民族の人々との出会い ..... P 6



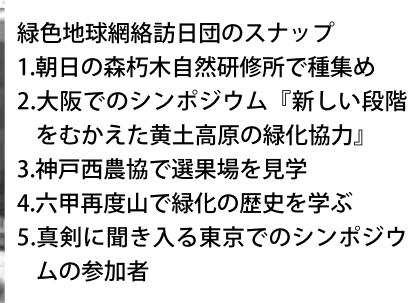
1

4

5



2



3

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『森よ、よみがえれ!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る etc. あなたのご参加を待っています!

1998・11

64

## 緑色地球網絡訪日団

# たくさんの人と交流 ～ありがとうございました

10月22日から11月1日まで、総勢10名の緑色地球網絡訪日団が来日しました。受け入れにあたり、(財)国際緑化推進センターから助成をいただきました。また、訪日団カンパの呼びかけに応えてくださったみなさんにも、お礼を申し上げます。直前まで本当に実現できるのかとハラハラしどおりでしたが、来日以降は各方面のみなさんの暖かいご協力のおかげで、無事実りおおい日程を終了することができました。ボランティアスタッフとして協力していただいたメンバーの感想とあわせて、簡単に報告いたします。

## 訪日団フラッシュ

### ●10月22日（木）大阪到着

午後2時10分、CA927便で関西国際空港到着。訪日団の顔を見てホッとしました。

### ●23日（金）兵庫県川西市

川西市参観。選挙をひかえてお忙しいなか、行政施設や学校、市街地再開発地域などを案内していただき、団の行政幹部にはおおいに参考になりました。

### ●24日（土）大阪市

午前中大阪市内参観のあと、午後からシンポジウム『新たな段階をむかえた黄土高原の緑化協力』を開催し、約100名が参加。交流会には約65名が参加し、歌や楽器の演奏を披露しました。その後、団のメンバーは5つの家庭にわかれてもう一泊を体験しました。



胡弓や、すばらしい笛の演奏もあった交流会

### ●25日（日）大阪市

午後から、立花代表の案内で咲くやこの花館見学。楽屋裏までしっかり見せていただきました。

### ●26日（月）神戸市

神戸市西農協見学。選果場や直売所、農家などを案内していただきました。

### ●27日（火）神戸市

午前、神戸市立森林植物園見学。午後、森林整備事務所を参観、六甲山の緑化の歴史を学びました。夜はテレカや書き損じハガキの回収にご協力をいたいでいる(株)ティエラのみなさんに会食に招いていただきました。

### ●28日（水）京都市

金閣寺、銀閣寺、京都大学などを訪れたあと、滋賀県の朝日の森朽木自然研修所にむかいました。

### ●29日（木）滋賀県

朝日の森で見学・種集め。モクゲンジ、カエデ、キササゲ等を集めました。

### ●30日（金）東京

新幹線でお昼過ぎに東京着。郵政省、環境庁、農林水産省、林野庁、環境事業団などを表敬訪問しました。夜は全ジャスコ労働組合のみなさんが歓迎宴をひらいてくださいました。

### ●31日（土）東京

午前中東京見学のあと、午後からシンポジウム『黄土高原での緑化の現状と将来』を開催し、約60名が参加。その後の懇親会には約40名が参加しました。

### ●11月1日（日）帰国

早朝、成田国際空港へ。全員無事帰国したむね、後日大同から連絡がありました。お世話になったみなさんにお礼を伝えてくださいとのことでした。

## みんなで考えていきたい

仲埜 亜紀子（大学生）

10月24日、中国語も分からず、大阪のことなど分からずわたくしが、訪日団のみなさんと大阪の街を歩くことに…。そこで、紙谷さんから『彼等は、大阪でいう、府知事や幹部クラスの人ばかりなんだよ』と聞かされ、改めて、この訪日の重みを感じました。

シンポジウムのなかで一番印象に残ったのは、立花先生の『みなさん木を植えましょう』といつて、反対する人はまずいませんね。でも木を切るのをやめましょうといつたら反対する人が出る。木を切ることをやめるほうが何倍も大切なのに…』といわれた話です。

わたしは、木を植えることは単純にいいことだと満足しているところがありました。でもそういわれると今ある木を守ることのほうが簡単だと思うのです。何

十年、何百年もかけて、もとどおりに再現するよりも。

だけど自分の生活を振り返ってみると割りばしは使うし、すぐにコピーをとったり、紙に感謝することなんてない。きっと木を切るのをやめたら困ることがたくさんあるんだろうなと思いました。

でも現実に起こっている話を聞くと、考えずにはいられない、そんな矛盾を感じながら、それでももっとたくさん的人にこんな話を聞いてもらいたい、みんなで考えていいたいと思いました。

## 質疑の時間がなく残念

岡 元司（高専教員）

私は、GENの会則に書かれている「目的を共有する、自立した個人のネットワーク」という表現が、とても好きです。ですから、たとえば今回のお話で、立花さんが、黄土高原よりも、太行山脈で実績をつくった方がよいと言われたことが、仮に当初の目標とズレを生じていたとしても、「自立した個人」たちが話し合って、その結果として活動の選択がなされるならば、かまわないと思います。

ただし、ひとつだけ惜しまれたのは、「自立した個人」の多数参加するシンポジウムだったので、時間がおしていたとしても、やはり5分間でもよいから質疑応答の時間はつくってほしかったことです（大阪会場の場合）。

しかし全体的には、深い内容のことまで聞くことができ、とてもおもしろい会合でした。行ってよかったと思いながら帰途につきました。

## チームワークで歓待

岡田 满江（大学生）

東京で緑色地球網絡大同訪日団を迎えたのは3日間だけでしたが、心配していた雨にも降られず、日程はとても濃いものでした。

10月30日午後到着後すぐに郵政省、環境庁など関係各省庁に表敬訪問しました。私はついてまわるだけでしたが、緑化の援助はGENだけでなくもっと広い範囲でささえていることを実感しました。

ジャスコ交流会まで時間があったので、銀座でいわゆる「銀ぶら」をしました。金曜日だったせいかたくさんの人でぎわう銀座で、私たちもこころなしかはしゃいでしまいました。

10月31日は当初東京側で考えていたプランを変更し、東京見物となりました。当日決め、下調べもなく行ったので、皇

## 年末カンパのお願い

緑の地球ネットワークは1997年に活動を始めて7年目になります。この間山西省大同市の植林協力は今春で苗木705万本、面積は2,560haになりました。チコロナイは第1期分として95年秋に北海道二風谷の山林3.4haを購入しました。

開始以来、多くのみなさんや団体のカンパ、公的・民間の助成等に支えられて活動を継続でき、感謝しています。

現在、不況のなか財政的な困難に直面していますが、金額は少しづつでもたくさんの方にご協力していただいて、活動を継続させていきたいと思います。年末のカンパをよろしくお願ひいたします。

GENの会員数は現在約600名です。今年1月から107名の方が新規会員になっていただきました。たいへんうれしいことです、事情で退会される方もあります。まだ会員でない方、ぜひ入会していただけるよう、よろしくお願ひいたします。

### 【緑化基金にご協力を!】

●空き缶募金箱…空き缶に貼って使うシールを用意しています。毎日たまる小銭を緑化基金に活かしませんか。

(前頁よりつづく) 居では勉強になりました。また周辺を散策して、木々の色の変化がまばらであることを確認しました。今年の秋は気温が高い日が多くたったせいか、紅葉の具合が木によって、また1本の木でも違いがあったようです(藤井君のするどい指摘)。東京都庁展望台では地上202mから東京を一望しました。受け入れ側(案内人)も一緒になって観光したのは否めません。

シンポジウム会場に無事到着してよかったです。

11月1日早朝、訪日团のみなさんを送り出して、やっと肩の荷がおりました。

今回は直前まで慌ただしい状態でしたが、関東ブランチのメンバーのチームワークで乗り切れました。感謝しています。また、私自身普段行くことのできない所に行けて、大変役得な思いをしました。

## 多謝—ご寄付・助成金

### ◆国際ソロプチミスト奈良—まほろば

奨学資金として10万円を寄付していました。中国大同市の、親のいない子のために炭鉱がたてた学校「希望学校」の林業をめざす学生への奨学金として使わせていただきます。

●使用済みテレカ回収…使用済みのテレカ・オレンジカードなど絵柄のきれいなものを、換金して苗木代にします。

### 【販売活動にて協力を!】

#### ●絵ハガキ『中国・黄土高原の四季』

撮影:橋本紘二、春・夏各8枚1組、カラー。郵便番号欄5桁のため、特別価格500円(送料別)。

#### ●ビデオ『森よ、よみがえれ!』(28分)

環境事業団地球環境基金制作協力。大同での緑化協力や農村の生活の記録。5,000円(会員価格4,000円・送料別)。

#### ●ブックレット『黄砂の村をゆく~中国黄土高原の緑化に挑むNGO~』

上田信著・A5判56頁、500円(送料別)。

#### ●中国山西省の切り絵各種

大同の農村部で農閑期に作られ、彩色された美しいものです。ハガキやカードに貼ったり、写真立てに入れて飾ったり。1セット10枚前後入って500円(送料別)。デザインは、十二支、動物、花、龍、馬、京劇、西遊記など。

★お問合せ・ご注文はGEN事務所(TEL: 06-583-1719、FAX: 06-583-1739、E-MAIL: gentree@ma.kcom.ne.jp)へ。

### ◆富士ゼロックス端数倶楽部・富士ゼロックス株式会社

それぞれ20万円のご寄付をいただきました。端数倶楽部はこの2年來、黄土高原へのツアーを派遣して、現地との交流を深めています。

### ◆新潟県国際交流協会

新潟・国際協力ふれあい基金60万円を黄土高原緑化に助成していただきました。

## 张家口市張北県に 小学校完成



98年1月の地震によって倒壊した张家口市張北县台路溝郷爬胡不落村小学校の再建に協力していましたが、9月の新学期までに新校舎が完成し、子どもたちが元気に登校しているという連絡が現地からありました。レンガ建てタイル貼りの



## 1999春の黄土高原 ワーキングツアー

訪日団も無事帰国してホッと一息、という間に、来春のワーキングツアーのお知らせをする時期となりました。

●日程: 3月25日(木) ~ 4月1日(木)

●費用: 一般=16万円、学生=15万円(国際航空運賃、中国国内での交通費/食費/宿泊費、ビザ取得手数料、GEN年会費ふくむ)

※中国国際航空利用、関西国際空港発着。※成田空港発着便利用の場合、航空運賃の差額分約3万円高くなります。※北京もしくは大同で合流希望の方はご相談ください。

●定員: 25人

●締め切り: 2月25日(ただし、定員に達し次第締め切ります。)

●訪問予定地: 山西省大同市広靈県、靈丘県など。希望があれば、靈丘自然植物園建設に専念する特別コースも可能です。

※日程、費用など、変更になる場合があります。

## GREENなんでも勉強会第4期 黄土高原さっくばらん

中国400年の歴史発祥の地で「日本軍以来の外国人」が緑化協力をはじめ、今まで続けてくるにはいろんなことがありました。「ここだけの話」が飛び出しますかもしれません?

●日時: 第1回・1月21日(木)、第2回・2月18日(木)、第3回・3月11日(木)、各回とも18時30分~20時30分

●場所: GEN事務所(JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅徒歩3分)

●講師: 高見邦雄(GEN事務局長)

すてきな小学校で、レンガ塀で周囲もきちんと囲まれています。

震災の翌日に高見事務局長が現地を見舞ったあと、小学校再建の義援金を募集し、105個人3団体から1,533,47円が寄せられました。ありがとうございました。

## こんなに澄んだ水ははじめて ～苑西庄村からのたより

今年の夏、井戸をおくった広島県苑西庄村から、村人のよろこびの声がとどきました。



●わしはこの歳になるまで、水といえば深さ30mの井戸から汲み上げたものしか知らなかった。干ばつにおそれれば隣の苑西庄村まで水を汲みに行った。水道というものなど見たこともなかったが、今回のことでの世界が広がった。(亢延さん・74歳)

●今年、日本から来た友人がわしらの村の井戸掘りを援助してくれた。わしらは村をあげて喜んでいる。わしらの村は先祖代々水不足に困っていた。水不足では牧畜も発展しないし、澄んだ水を飲むことなどなかった。いまこうして澄んだ

水道水が飲めて、村じゅう大喜びだ。わしが家を代表して、日本の友人にお礼を言わせてもらう。わしらは永遠に井戸を掘ってくれた人のことを忘れはしない。(亢延さん・63歳)

●私は出稼ぎから帰ってすぐに、この井戸に気づきました。この澄んだ水を見ると、なんだか心が落ち着いてくるを感じました。私たち苑西庄村は昔から水不足で、人や家畜が飲み水に困るだけでなく、干ばつの年には農作物も収穫がありませんでした。ここ何年か若者のほとんどは外に働きに出ていますが、このきれいな水を見て、私はもう出稼ぎに行かずに、家で商売をすることだってできると思いました。

「外のほうが暮らしがよくても、暮らしの悪い家のほうがいい」ということわざがありますが、私はこの水資源をおおいに利用して、村の人たちとともに貧困から抜けだすようがんばります。村人を代表して、日本の友人および私たちを手

助けしてくれたみなさんにお礼を申し上げます。(亢延さん・23歳)

●以前は人や家畜の飲み水にも困っていて、お嫁に来る人はいなかった。この村の人は水不足を知っているから、嫁にやりたくないといい、他の村の人に話をもちかけば、「顔を洗って出直してこい」と言われる。実際の状況を見れば、来たいと思う女性などいないだろう。結局男たちはしかたなく、やもめ生活だった。しかし、今は各家に水道がついて、お嫁さんの心配もなくなった。それに牧畜で収入も増え、経済的にも楽になる。(張恒昌さん・19歳)

●日本から来たおじさん・おばさんが私たちの村の井戸掘りを助けてくれました。私たちはこれでもう飲み水や洗顔の水に心配しなくてすみます。水道水はきれいで甘くて、顔も洗えるし、ご飯も作れます。子どもたちはみなとっても気に入っています。日本のおじさん、おばさん、本当にありがとうございます。(張曉玉さん・13歳)

## 仙台でGENの輪を ～シンポジウム報告

藤原 茂樹 (大学院生)

9月26日、東北大学理学部付属植物園において開催した「中国黄土高原緑化に関するシンポジウム」は、事前の宣伝不足もあり、一般からの参加者が3名しかおらず、身内だけの勉強会という形になりました。

それでも東北在住のGEN会員や、はるばる仙台まで駆けつけてくれた関東、関西の会員の方々と交流でき、今後東北地方で活動するに当たり、貴重な足がかりとなったと確信しております。

内容の方は遠田先生、上田先生の講演や、ツアー参加の森満さん、佐々木さんの体験談の後、世話人の長坂さんより送られたモクモク地ビールとハムに舌鼓を打ち、無事終了しました。

今回仙台でのシンポジウム開催に関わり、やはりツアーに参加しただけではなく、その体験を語る場、あるいは同じ体験をした人とのつながりが必要なんだということを感じました。今後どのような形に発展するにしても今回のシンポジウムは有意義なものであったと考えます。

最後になりましたが、シンポジウム開催に当たりましてご助力をいただいた遠田先生、上田先生、倉持さん、浪越君、そしてモクモク手づくりファームの長坂さん、どうもありがとうございました。



意外と暑く、木陰でホッと一息。



# 世界の森林と日本の森林（その16）

立花 吉茂（緑の地球ネットワーク代表）

## ●地球を護る森林

地球の温暖化や大気汚染を考えるとき、森林の果たす役割は大きい。その森林は、温帯にも熱帯にもあるが、亜寒帯の森林は単純な单層構造であるのに対して、熱帯の森林は複雑な多層構造である。それが果たす役割はたいして変わらないように見えるが、若干の違いはある。北半球のハワイのデータでは、二酸化炭素の排出濃度は冬と夏とで差がある（図1）。これは、温帯と亜寒帯の森林（主にシベリアとカナダの針葉樹林）が、冬季に休眠してあまり多くの二酸化炭素を利用しないからであると考えられる。これに対して熱帯の森林では1年中休むことなく光合成がおこなわれるから直線状になる。このような違いは大きい目で見ればさほ

どの影響はないように見える。最も大きな違いは、多様性の差であり、生物資源の種類の多さの違いである。シベリアやカナダの針葉樹林は材木（紙パルプ）としての価値が高く、現在の重要な資源である。これに対して熱帯林は、年中酸素を放出する利益以外に、多様な遺伝資源を持ち、未来の人類の必須の資源である。その価値の高さははかりしれないほど大きい。

## ●消えて行く熱帯雨林

その貴重な熱帯林は、資源として大半が切り尽くされた。いま残っている場所はアマゾン地域である。そこが毎日切り倒され、焼き払われている。わずか少数の人びとの農地開発なのである。ここ

に職場をつくってやれば伐採せずにすむ。にもかかわらず、世界の人たちはそのようにしようとはしない。いま、その重大性を説き、実際の行動に出なければもう間に合わない。それは、図2を見ていただければおわかりになるであろう。16%のラインはもうないに等しいから、それはもうすぐやってくるのである。ブラジルに職場をつくる運動をボランティアでやらなければ、だれもやらないのであるか？ みなさん、どのようにお考えでしょうか？

図1 ハワイと南極での大気中の二酸化炭素濃度の経年増加（Machta）

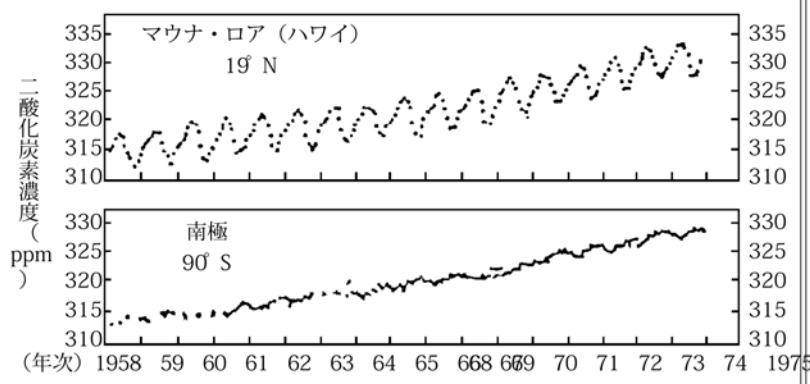
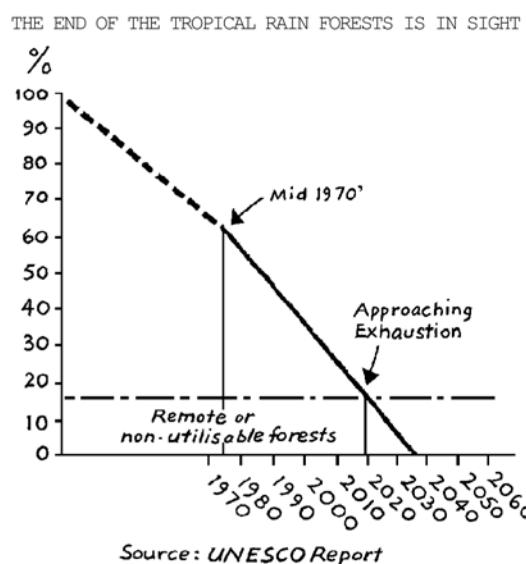


図2 热帯雨林の終息予想



# 緑の中国〈歴史篇〉20

上田 信（立教大学教授）

戦国時代の後期、照葉樹林が茂る楚国で屈原が悩みの淵に沈んでいたころ、華北の植生は一大変化を被っていました。例えば、現在の山東省に位置した牛山は、かつては樹林が美しかったものの戦国時代に伐採され、しかも芽生えが出始めるに牛や羊を放牧するために禿げ山になってしまったといいます（『孟子』告子章句上）。華北に落葉広葉樹林が茂っていた『詩經』の時代、人々は森林と共に生きるという感性を持っていました。しかし、開発が進み身近な森林が消滅すると、野生の植物との豊かな関係も失われ、動植

物に対する感性も摩滅して行きます。

『孟子』には興味深いディベートが收められています。かたや儒家を代表する孟軻、対するは「農家」思想家の許行に心酔する陳相。「農家」は諸子百家の一つで、その思想の内容についてはほとんど今日に伝わっていません。孟軻が相手に加えた攻撃のことばから見ると、農業や手工業に基礎をおいた平等社会を目指し、精神労働と肉体労働との区分もないコミュニーンを造ろうとしていたようです。このディベートは孟軻の発言として記録されていますから、当然、儒家側が勝ちと

なります。「農家」側の記録がないですから、判定を下すにはいささか不公平と言わざるをえません。

山東に位置する滕の国は、そのころ古式にのっとった政治を進めていました。南国の楚の人、許行はその徳を慕い、数十人の仲間と共に移住しました。みな粗末な毛布を身にまとい、農業で自給自足し、わら靴や筵を生産し、必要な農具・炊事用具などは交換することで手に入れていたようです。そこでは支配するものも、支配されるものもない平等な関係が生まれていました。

陳相はもともと儒家を信奉していたのですが、このコミュニーンを見て感動し、宗旨替えたのです。

# 「感動・交流・体験」

## —アイヌ民族の人々との出会い—

### 大盛況で無事終了！

大阪市立弁天町市民学習センター主催、GENチコロナイ部会の協力で、(財)アイヌ文化振興・研究推進機構の助成金100万円を得て開催。二風谷から、貝澤耕一さんをはじめ、8人の方が来られました。

市民学習センターの方がたや、チコロナイの仲間の、各方面でのご協力により、大盛況のうちに無事終了しました。

#### 【アイヌ文化体験教室・10月24日午後】

##### ●アイヌ語入門

講師は神崎雅好さん、貝澤耕一さん。参加者29人。はじめに貝澤耕一さんがアイヌ語の歴史と体験を話されたあと、神崎さんのアイヌ語解説がありました。

##### ●木彫り体験

講師は貝澤真紀さん、貝澤留美子さん。参加者39人。丸いコースターにアイヌ文様を彫りました。

##### ●刺しゅう体験

講師は貝澤美和子さん、貝澤ユリ子さん。参加者37人。アイヌ文様を刺繡したコースターをつくりました。

##### ●アイヌ料理体験

講師は萱野れい子さん、萱野春美さん。参加者25人。シプシケペメシ（イナキビご飯）、カムルル（鹿汁）、コサヨ（粉粥）、シト（団子）をつくりて食べました。

また、料理以外の体験教室参加者は終了後、料理班の世話係の人たちがつくったアイヌ料理のシトを試食しました。

#### 【アイヌ民族舞踊体験教室・25日午前】

講師は8人全員。参加者32人。ウポボ（座り歌）の輪唱に始まり、チャッピーヤク（アマツバメの踊り）、大空のハララキ（鶴の舞）、ヤイサマ（即興叙情歌）、ホリッパ（輪舞）などのアイヌ舞踊を習いました。また、アイヌ刺繡の衣装を着て写真を撮ったり、午後の講演会で踊る希望者も交えて、リハーサルをしました。

#### 【講演とアイヌ民族舞踊・25日午後】

前日の体験教室の参加者による報告のあと、貝澤耕一さんの講演、「自然の中で育ったアイヌ文化」がおこなわれました。

その後、イスをかたづけて、平取アイヌ文化保存会の8人と午前中に体験学習で習ったみなさんによるアイヌ古式舞踊の発表。最後には、参加者全員で大きく

輪になってホリッパを踊って、楽しくまた有意義な2時間を終わりました。

また、10月17日から25日まで、アイヌ文化工芸作品の展示と写真パネル展が弁天町市民学習センターのロビーでおこなわれていました。工芸作品は、(財)アイヌ文化振興・研究推進機構から借り受けた、萱野れい子さん、貝澤真紀さん、高野啓子さんらの作品。写真パネルは矢崎龍雄さんと貝澤耕一さんが第1回から今年までのチブサンケのようすと沙流川の変わりようを撮影したものと、チコロナイの紹介をしたものが展示されました。

#### 【感想紹介～アンケートから】

△アイヌししゅうの左右対称の美しさとピンと先のとがった模様にリンとしたものを感じた。講師が親切で、ししゅう以外のアイヌの話を聞かせて頂けた。シトの試食がとてもおいしかった。

△いろんな生き方をしている人がいるなあと思いました。けど、アイヌの方々も特に私たちと同じ生活をしていらっしゃるのですよね？ あまり民族などを意識せず生きてきていたので、今日はとても不思議な気分でした。

\*\*\*\*\*

## アイヌ民族の人々との出会い2日目

岡田光司（会社員）

2日目の25日は午前中は「アイヌ民族舞踊教室」、午後は貝澤耕一さんの講演と民族舞踊のミニ公演。

舞踊教室は定員を越える50人の盛況。事前のPRも奏効し、普段のチコロナイの活動では見られない人も多く、若い女性の姿が目立った。

貝澤さんが「アイヌの踊りは見せる踊りではなく、自分で楽しむ踊り。世界の民族舞踊の中でも楽器を使わない珍しい歌踊り」と解説。早速、平取アイヌ文化保存会のメンバーのリードで、踊りを始める前に歌う「ウポボ」を歌ったが、難しい輪唱も3回でマスター。アマツバメ



料理を通じてアイヌ文化を知ることができた

△自然と一体になる気持ちが（鶴になつたり、アマツバメになつたり）とても楽しかったです。

△ひとつひとつつなぎけるお話で、すごく考えさせられました。それに、すごく心がすんでき、心地よく聞きました。アイヌの人たちがつらい目にあわること（差別されるような）もきっとたくさんあるんだろうなと思いながらきいていました。自然の中で共生する生き方をこれからさがしていきたいと思います。

△今まで知っていると思っていたアイヌの知識（もともと少ないですが）がなんてなきれないものであったか実感させられました。沖縄とアイヌとともに近しい仲であるという表現はすごくよくわかり、やっぱり！と思いました。「知ることで自分でいろいろと判断できる」という言葉、とてもステキでした。やっぱり、いろいろなさべつや偏見をなくすには、いろんなことを知ることですね。私もまず、伝えていきたい。「文化を大切にすること」がんばります。ありがとうございました。



どりが基本。実際に踊ってみると、見た目より動きが激しく、踊りの途中で休憩する人も。最後に全員が民族衣装を着けて踊った。

ある女性は「輪唱のハーモニーがうまくそろった時は体が震えるほど感動しました。こういう会をこれからも聞いて欲しい」。また、5人で参加した淀川区の小学6年生の女の子は「11月に旭川に交流に行くので、事前学習にきました。衣装もきれいで楽しかった。ここで習った歌と踊りをむこうで披露したい」と話し、

教室が終わった後も練習していた。

昼からの講演には約100人が参加。貝澤さんが強調したのは自然と共生する暮らしかたと、アイヌ教育の不十分さ。ニュージーランドの森林伐採で土砂が海に流れ、海草や貝が採れなくなり先住民が困っている例を引きあいにだし、「日本の企業がティッシュペーパーを作るために木を切っている。私たちも大量消費することで自然破壊に手を貸している」と指摘した。

昨日、アイヌ新法に取って代わった旧

土人保護法についても「アイヌを将来滅ぼる民族として定義していた。アメリカの『インディアン』に対する法律を真似したものだが、アメリカでは60年前に無くなっている。日本政府が本当の真実を子供たちに教育したら、差別はおきない」と語った。

ミニ公演では同保存会のメンバー8人が午前中の舞踊教室参加者らとジョイント。北海道のアイヌ民族の中でもテンポの早い平取地域の舞踊を披露した。

## 『チコロナイ』 第2期計画現状報告

1993年12月10日から、2年計画で始まった第2期計画は、1年間延長して、今年の12月9日まで、あとわずか1カ月たらずになりました。おかげさまで、10月29日までに、第1期計画からの繰越金を入れて合計5,879,37円になりました。寄付された方は、第1期も入れて455人です。

第2期の募金目標は700万円です。この目標を達成し、できるだけ早く第2期の山林買い取りを実現したいと思います。

チコロナイの輪をますます広めていくためにも、多くの方々のさらなる参加を呼びかけます。今回は全員に郵便振替用紙を同封しました。とくに第1期でチコロナイの輪に加わられ、第2期がまだの方、黄土高原の協力者でチコロナイはまだという方は、ぜひ、わずかでもご協力をお願いいたします。新たに加わる方ももちろん大歓迎。よろしくお願いします。

### 【“チコロナイ”連絡先】

武田繁典 〒546-0003大阪市東住吉区今川6-2-6 (TEL/FAX. 06-704-7720)

貝澤耕一 〒055-0101北海道沙流郡平取町二風谷31-3 (TEL)01457-2-2080FAX. 01457-2-3991)

郵便振替 00900-2-52024

加入者名「チコロナイ」

## ナショナルトラスト「チコロナイ」に 96年5月以前に寄付されたみなさまへ

募金活動の案内のなかで、寄付された方に、以降3年間、年に2回、経過報告やお知らせをお送りすると書いています。今まで、GEN会報「緑の地球」をお送りしてきました。今回この11月号(64)がお手元に届くと思います。しかし、96年5月以前に寄付されてから継続されていない方へは、この号が最後となります。できましたら、「チコロナイ」とのつながりを継続するために、少額でもご寄付をお願いいたします。

これからも、大阪での毎月の「チコロナイ学習会」、「アイヌ語講座」、二風谷現地での宿泊研修会(夏のワーキングツアー、子供キャンプ、春、秋のツアーなど)を計画しています。ぜひご参加ください。

## 月刊「チコロナイ通信」購読のご案内

チコロナイ関係の現地宿泊研修会、学習会、アイヌ語講座、講演会などの行事予定、ミニニュース、連載「アイヌ語ひとくちメモ」、「リレー自己紹介&エッセイ」、「北からの手紙」などを載せた「チコロナイ通信」を毎月発行しています。郵送ご希望の方は郵送料ともで1年間分1,200円を80円切手15枚で同封のうえ、左記武田までお申し込みください。

## 第38回 チコロナイ学習会

- 日時：11月28日(土) 16時～18時
- 場所：GEN事務所 (06-583-1719)
- 内容：夏の旅行談、前回は北海道・アイヌモシリとモンゴルで終わってしまいました。続けて中国・黄土高原、ロシア、イギリス、アメリカ(ネイティブアメリカンとの交流)のお話を聞きます。

10月24、25日のアイヌ文化体験交流会の反省もします。ふるってご参加下さい。

- 参加費：100円+カンパ

- 問合せ：武田繁典まで

- ★初めての人も、1回だけの飛び入りも大歓迎です。

## チコロナイアイヌ語講座 ～いやでもわかるアイヌ語～

### 第4期第5回

- 日時：11月28日(土) 14時～16時
- 場所：GEN事務所
- 資料代：第4期(6回) 分で2,000円
- 問合せ：平石清隆 (TEL. 0745-23-5627)
- ★『エクスプレス・アイヌ語』(中川裕・中本ムツ子著、白水社) の9のところをやります。また、『アイヌタイムズ』も読みます。
- ★1回だけの飛び入りも大歓迎(400円)。



## 地球環境市民大学校 環境NGO活動入門講座

日本の環境NGO最前線のスタッフとともに、NGO活動が学べます。

●日時：11月28日（土）10時～16時30分

☆10時～12時：シンポジウム『環境NGO 社会への影響力をつくる』環境NGOのさまざまな活動について、その実践にあたっている環境NGOのコア・スタッフが実例、成功と失敗を紹介。今後の環境NGO活動の展望について考えます。

☆13時～16時30分：ワークショップ①環境教育 なぜ、何を、どのように②グリーン・コンシューマー入門③国を超えたつながり～地球市民をつくる④地球温暖化を防ぐ キャンペーンづくり⑤市民が調査研究する⑥環境NGOの企画、運営（中級編）（定員各30人・先着順）

●場所：京都アスニー（京都市生涯学習総合センター・市バス「千本丸太町」）

●主催：環境事業団地球環境基金

●企画・運営：環境市民

●参加費：無料

●問合せ・申込み：環境市民（TEL. 075-211-3521、FAX 075-211-3531、E-MAIL cefngo@mbox.kyoto-inet.or.jp）

## COP3一周年 市民が進める温暖化防止

京都でのCOP3から1年、温暖化防止の対策はすすんでいるのでしょうか？

●日時：12月5日（土）・6日（日）

☆5日13時30分～17時20分：シンポジウム『京都会議からの出発 市民が進める温暖化防止への道』セッション1：京都会議から1年・何が変わったか？ セッション2：京都議定書を活かそう

☆6日10時～16時：NGO活動交流会・分科会▽国際自然エネルギー・バイオニア会議▽グリーンオフィス戦略▽環境家計簿▽COP4の成果と課題▽フリーセッション

●場所：京都市北文化会館（地下鉄「北大路」駅下車・キタオオジタウン内）

●主催：気候ネットワーク・地球温暖化防止京都ネットワーク

●問合せ・申込み：気候ネットワーク（TEL. 075-254-1011、FAX 075-254-1012、E-MAIL:kikonet@jca.ax.apc.org）

## ユズ・ポンカンのご案内

高知の田中さんから、土佐の晩秋の香りをどうぞ。

●ユズ（無農薬・有機〔鶴糞主〕栽培）

・2kg箱詰（17～18個入り） 1,600円

●柚子酢（無農薬）

・4合瓶2本箱詰（720ml×2） 3,400円

・1升瓶1本（1.8l） 3,700円

○出荷：10月25日～12月5日

●ポンカン（低農薬・有機栽培）

A	3L/2L	5kg	化粧箱	4,000円
B	"	"	普通箱	3,700円
C	"	3kg	化粧箱	2,600円
D	L	5kg	"	3,500円
E	"	"	普通箱	3,200円

○出荷：12月ごろ～来年2月

★送料：630円（関西方面）。その他の地域はお問い合わせください。

★お申し込みは田中隆一さんまで。

〒781-7411高知県安芸郡東洋町甲浦

TEL/FAX. 08872-9-2500

★売り上げの一部がGENへの寄付になりますので、ご注文の際は「GENの紹介」と一言添えてください。

## 編集後記

今秋、我が家近所ではキンモクセイが1か月ほどの間に2度咲きました。香り高く秋を告げる大好きな花なので2度も楽しめたのは嬉しいのですが、この秋の気候の変調のせいでしょうか。ちょっと気がかりです。

おりしもCOP4では、「そっちが減らさないならこっちも減らさない」と意地の張り合いのようです。でも、地球温暖化は、どこかよそに住む他人の問題でも、遠い未来の問題ではなく、私たち自身が現実にむきあわなければならない今日・明日の問題です。せめて、「こっちも減らすからそっちもなんとかしてよ」と、取り組めないものでしょうか。（東川）